

時の動き

悪夢の教育勅語を復活させるな

元豊島区立千川中学校教諭 田畑 和子

おぞましい光景

それはおぞましい光景だった。国民の前に、突如として、いたいけな幼稚園児たちが教育勅語を誦んじている姿が出現したのだ。最後に「安保法制よかったです」「安倍首相がんばってください」が付け加えられ、その学園の名誉校長に就任する安倍首相夫人昭恵氏をいたく感激させた。

軍国少女として

私は1935（昭和10）年生ま

れであるが、幼稚園でそんな教育は受けていない。小学校へ入る際「子どもは日本の国民であるから」と「国民学校」に改称された。教科書が変わった。私は国民学校二期生である。いつの間にか、自分が「天皇の赤子（せきし）」であり、天皇のために死ぬ」のは当然と思うようになっていた。

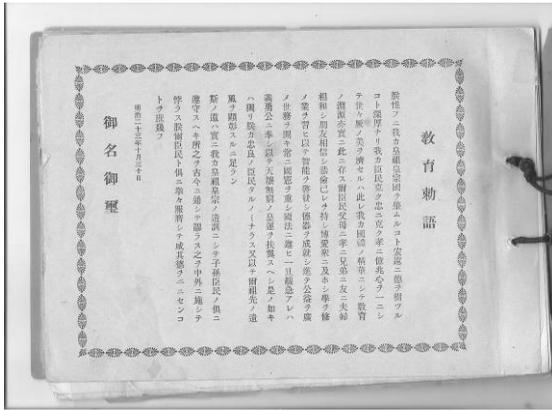
ともあれ、幼い軍国少女は、道路を歩いていても「君が代」が聞こえてくれば直立不動の姿勢をとり皇居のある東の方を向いて深々とお辞儀するのが常であった。遊びは「戦争ごっこ」で、怪我をした兵隊さんの介抱をする看護

婦さんの役を演じ、男なら出征して天皇陛下のために闘うことができるのと、くやしう思っていた。それらは時代の雰囲気によるものだったと思う。

何しろ修身の時間に「天皇は神様である」と習ったので、ものを食べ、生きてくるとは思ってもいなかったのだ。

日常生活に溶け込んでいた 教育勅語

毎日のラジオ放送の影響も大きかった。流れてくる歌は子ども達を鼓舞するもの「昭和の子ども」や、「日本は



教育勅語

桜、満州は蘭よ、支那は牡丹の花の国
助け合いましよ仲良くしましよ……」
や「兵隊さんよ有り難う」など国策に
沿ったものばかりだった。歌の好きな
私は、すぐ覚えて歌っていた。道端で
は千人針、幼稚園では兵隊さんへの慰
問の手紙を書いた。これは、森友学園
の幼稚園児の姿とダブって見える。

森友学園の前理事長籠池泰典氏は、
長年の「日本会議」の会員である。今
問題になっていて安倍首相の「腹心

の友」加計学園の理事長も同様だ。
振り返ってみると、疑問も苦痛もな

く、教育勅語の教えは日常生活の中に
溶け込んでいたのだった。

安倍昭恵婦人の発言に怒り

教育勅語は1890（明治23）年、
明治天皇が各学校に「下賜」され、行
事の度に「奉読」が義務づけられた。

冒頭の光景は、森友学園の塚本幼稚園
の園児たちによるものであるが、昭恵
夫人の「せっかく幼稚園でこんなすば
らしい教育を受けながら、小学校の教
育でそれが継続できず忘れられてしま
うことが忍びない」という感想を聞く
と、現代の教育を否定していることに
怒りを覚える。

憲法の国民主権と相容れない 教育勅語をなぜ復活させる

新憲法が1947（昭和22）年に
施行された後、衆議院、参議院の双方
は、1948年6月、廃止を決議した。
教育勅語は天皇主権であり、新憲法の
国民主権と相容れないからである。

しかし戦前回帰を目論む安倍内閣は、
稲田防衛相、松野文科相、菅官房長官
らが教育勅語支持を表明し、「憲法や
教育基本法などに反しないような形で
教育勅語を教材として用いることは否
定されることはない」と閣議決定を
行った。安倍政権の教育への介入であ
る。

私たちは、今後この動きに抗してい
かねばならない。

（たばた かずこ）